

## 第9回 邑南町地域コミュニティのあり方検討委員会 議事録

日時：令和5年10月30日（月） 18：30～20：30

場所：出羽公民館

出席者：委員18名 作野広和委員長、日高輝和副委員長、井上英司委員、木村浩善委員、古田五二嗣委員、小田博之委員、品川隆博委員、橋本茂委員、森脇和代委員、鳥居清枝委員、和田康司委員、藤本順子委員、日高弘之委員、小笠原文夫委員、有井貞之委員、甲村正樹委員、瀧田均委員、皆田潔委員

事務局5名 田村哲（地域みらい課長）、大賀定（総務課長）、高瀬満晃（教育委員会学びのまち推進課長）、湯浅孝史、上田直明、秋本啓太（地域みらい課）

### 1. 開会あいさつ

作野委員長：地域運営組織設立の手引きの具体的な案が出ている。地域で検討が進めやすいよう、ご意見をいただきたい。

### 2. 協議事項

#### (1) 地域説明会について【資料1】

事務局：（資料1について説明）

作野委員長：すでにチラシは配っているということだが、実施にあたってご意見、ご質問はないか。

委員：町政座談会に参加する人には基本方針は配布するか？

事務局：概要版を配付する予定。

委員：できれば冊子の方を配って、より多くの方がイメージが湧くようになるとよいと思うがどうか。

事務局：冊子を配付するようにする。

作野委員長：人数が少ないところでは全員配るとか、配ったものを回収するとか、ダウンロードしてもらうなど工夫してほしい。

作野委員長：事務局がどんな見通しかを教えてほしい。

地域みらい課長：例年の座談会はフリーテーマで質問に対して担当課長が回答するが、今回はテーマに基づいた座談会で、座席もグループに分ける形で実施する。各課長が各グループに入る。女性や若い方にも参加していただきたい。新たな組織に転換していくのに

どういったことが必要か、どういったことが懸念されるかという声を拾いたい。公民館や自治会の地区があれば、複数自治会が統合するところもある。運営についても懸念されることがあると思う。グループで意見交換をし、それを全体で共有する。

作野委員長：参加者が主体的に関われるように工夫されるということだ。

委員：今までの町政座談会では、参加する人が決まっている。事務局でもっと参加者が増えるように工夫してほしい。より多くの人に呼び掛けてほしい。

総務課長：これまで決まった方が出てこられる地区、参加が少ない地区もある。周知をしているところではあるが、なかなか参加が増えなかった。今回はテーマを決めて呼びかけることで、少しでも多くの方に参加していただけるように工夫したつもり。地域コミュニティに関する意見交換としては手始めになる。より踏み込んだ説明は、手を挙げていただいた地区には別途説明をする。

地域みらい課長：全体を見ると、多くの方が参加している地区もある。町からの周知の仕方が同じでも、地区によって地区住民への呼びかけ方が違うのだと思う。町としては平等に周知するというご理解いただきたい。

作野委員長：地域コミュニティのことに限らず、住民参加に関わる大事なこと。本当はもっと参加しやすいような名称がよい。地区によって案内のしかたを変え、多様な方に参加してもらえそうな投げかけは必要だと思う。

## (2) 地域運営組織設立・運営の手引きについて【資料2】

事務局：(資料2-2について説明)

### ○第1章「地域運営組織の概要」について

作野委員長：第1章から順番に見ていく。1～6ページまであるので、目を通していただきお気づきの点についてご発言いただきたい。

委員：基本方針の「体制のイメージ図」や「地域運営組織とコミュニティセンターの関係のイメージ」が入っていないが、意図があるか。せっかく基本方針で決めてある図があるので、入れてほしい。

事務局：今回の手引きについては、地域運営組織の設立のところだけを抽出してつくったので、全体像について今回の資料については入れていない。

作野委員長：コミュニティセンターの機能・役割などは必要なことだと思う。

委員：基本方針が住民に行き渡ったうえで載っていないのであればよいが、そうでないなら初めて見る人が理解しづらいので載せてほしい。

委員：載せた方がよいと思う。

作野委員長：コミュニティセンターとの役割分担等についても書き加えていただきたい。

委員：町政座談会でコミュニティセンター化の話を出すと、その点がまず気になってしまい本当に聞き出したい組織についての意見が聞き出せないと思う。

作野委員長：手引きに何を盛り込むかということと、説明会でどこに論点を置くかということと、コミュニティセンター化するうえでの意見が出るということについてだ。議会への説明等について現状はどうか。

地域みらい課長：基本方針については説明をした。これからこの形に進んでいきたいということで予算の提案をしていく必要があるが、そこまでは進んでいない。

作野委員長：説明会で地域がどうなるかを論点にすべきだが、公民館がどうなるかということばかりに論点が行くのは懸念される。ただ、手引きにおいては記載しておくべき。

日高副委員長：町政座談会では手引きも配るのか。

事務局：配らない。

日高副委員長：町政座談会では、手引きの中身に関するような意見も出てくると思うが、あくまでも基本方針について説明するということだ。

## ○第2章「地域運営組織の設立」について

委員：3階層を2階層にしていく中で、自治会の閉じ方についても記載があるとよいと思う。

作野委員長：町としても補助金の出し方等を変えていくということについて、記載をした方がよいということだと思う。事務局としていかがか。

事務局：書くとしたら、設立総会の後の部分にするか、別冊にするかだと思う。初めてのことでなので丁寧に記載するよう検討したい。

委員：「集落の負担軽減」と書いてあり、集落の人は喜ぶと思うが、地域運営組織と集落との役割分担についてはもっと詳しく記載があるとよい。

作野委員長：基本方針には書いてあるが手引きには載っていないと思う。設立の流れの中でうまく説明していくということだと思う。

委員：役割分担については地域運営組織が考えることだと思うが、例えば具体的にどういった分担をするかを示していただけるとよい。

事務局：地域によって違うので一概に書けないが、分かりやすくなるよう考えたい。

作野委員長：例えば、他地域の例で具体的にどうしたかを書くなどが考えられる。

また、章単位で基本方針に載っているような図が入れるとよいと思う。

作野委員長：全体的に、もう少しイメージが湧く写真があるとよい。

委員：これから先、実際に地域に出て地域住民と議論しながら作っていくところが大変。これを一般住民に対して配っても読まない。特にお年寄りは、これからのことなので若い

人に決めてほしいと言われると思う。コアメンバーの5～6人で案を作り、地域住民に提案していくというやり方しか考えられない。地域の皆さんには組織論や地域活性化論ではなく、「あなたはどんなことが幸せに感じますか」「何がしたいですか」「そのために困ったことはありませんか」という、個人の幸せ論から入るとよい。経験上そういったアプローチがよいと思う。一部の人ワークショップなどを頑張ると思うが、民主制が課題となる。そのバランスをうまくやっていくように考えるのがこれから。集落代表者を出すのは限界があると思う。ある程度、我々のために頑張ってくれているのだと分かってもらうことが必要。中には「自分は聞いていない」という人もいると思うが、少人数。これを乗り越えていくには、少しやる気のある人が叱られても頑張っていけるようにした方がよい。この手引きはそのプロジェクトチーム向けに作るものだと思う。これらを進めていくにはある程度、プロフェッショナルな人材を外部から呼ぶなどして進めてもらった方がよいと思う。

事務局：地域運営組織を作っていくうえでも、中間支援組織に行政との間に入ってコーディネートしてもらうことを想定している。手引きはプロジェクトチームのメンバー向けに作っていきたいと考えている。

作野委員長：手引きの中で、外部コーディネーターによる支援についても、もっと匂わせた方がよいと思う。

事務局：役場の支援の部分に少し書いてはいるが、分かりやすいようにしたい。

作野委員長：個人の幸せ論から導き出すことは大事なこと。手引きに書いた方がよいか。

委員：マニュアル化するのは難しく、現場判断で変えることもある。テクニックとして質問の投げかけ方の事例などをまとめていくとよいと思う。

作野委員長：組織論から入ると住民には「任せる」と言われるが、何か決めようとする代表性的問題が出てくる。このあたりの具体的なノウハウを手引きのコラムに書いていくかどうか。代表性を担保したうえで話し合いをして、決定の場に返していくのがよい。どうしても地縁組織は否定できず、ネットワーク型の組織を進めるにあたっては反発もあると思う。複線式でうまくやる方法を考えないといけない。

### ○第3章「地域運営組織の運営」について

委員：実際には活動を部会が担うと思う。地域運営組織になることで、部会の作り方も地区によって違うと思うが、地域運営組織になることで部会の役割が重要なのは間違いのないと思う。

作野委員長：部会づくりの面と、部会がいかに関与するかという面からのご意見だ。

事務局：部会の運営について詳しくは書いていないので、規約の細則の例として書くか、他の地域の例を記載するなどしたい。

作野委員長：地域運営組織が何をするのかについて、具体がもう少し見えた方がよい。

委員：手引きや規約の例は参考になると思う。誰もが見るものではなく、プロジェクトチームが見るものと考えた方がよい。住民からの具体的な思い・意見を拾い上げた上で組織をつくっていくとよいと思う。具体的な手引きが示されると中心メンバーが動きやすい。

作野委員長：地域の決定権がある組織の合意を得たうえで、いろいろな住民が参画したり住民の声を拾い上げたりして原案を作り、それを地域代表性がある組織で決定する、という合意形成の流れも分かるとよい。

#### ○第4章「大切なこと」について

作野委員長：住民以外の参加についても記載があるとよい。事業所や公的機関、他出子、ゆかりはないが関わりたい人など。

委員：コラムとして、幸せ論から入ることなどを書くことも、多様な人の参加のために参考になると思う。バックキャストिंगの考え方（目の前のことから考えるのではなく、将来像を実現するためにやっていくという考え方）についても記載があるとよい。

作野委員長：他の自治体では、地域計画づくりを絶対にするように重めに書いているところも多いが、どうか。

事務局：計画づくりは要件に入れているので、必ず作っていただきたいもの。理想像から考えていくバックキャストिंगについては「意識・ビジョンを地域内で共有しよう」のところに関わってくるので、イメージが湧くように書き加えたい。

計画づくりの方法についても他の自治体の例も見ながらもっと具体的に書くようにしたい。

作野委員長：他の自治体で、地域運営組織が多数あるのにどこも計画がしっかり作られているところがあるが、そういうところは住民がしっかり関わらずに計画が作られている可能性がある。そうではなくて、地域住民がしっかり関わって計画を作ることが重要。

作野委員長：この手引きはいつまでに完成させるのか。

事務局：今年度中には一度完成させる。その後も随時更新していく。

作野委員長：案に対する意見は別途集約するようにしてほしい。

#### （3）地域運営組織設立の補助金について【資料3】

事務局：（資料3について説明）

作野委員長：金額が出ていないので判断しづらいことではあるが、制度設計によって方向が変わってくると思うので、ご意見をいただきたい。

作野委員長：①を見る限り、ワークショップをやるのが必須となっているが、「ワークショップ」という言葉自体やスタイルにも抵抗を感じられる場合がある。「話し合い・ワークショップ」などの形にできないか。

事務局：変更する。

作野委員長：来年度予算に反映するものだと思うので、この場でご意見をいただいて反映するものだと思う。金額は言えないか。

日高副委員長：予算や議会のことがあるので、出すのは難しいが、皆さんから逆にこういったことに使えるようにしてほしい等のご意見をいただけると、制度設計がしやすくなる。

委員：資料3-2で、説明会はどんなイメージか。「交付」のところで実際にこの補助金を使うということか。

事務局：町から地域運営組織の要件や補助金の内容について説明をする。地区ごとに実施する。

委員：手引きの「はじめに」に書いてあるとおり、地域に多くある組織をまとめていくという意見が出てきた。以前は役場は地域の自治は地域で考えなさいと言っていたことに比べると、手厚い支援になっている。人口が少ない地域では早めに再編をしないといけないが、人口が多い地域では問題がないところもある。この補助金は、再編しないところは先になると思うが、再編されるときにはこの補助金があるようにしていただきたいし、各地区の中で設立補助金の金額が示されれば予算計上ができる。地域の皆さんの意見を取り入れながら決めてほしい。

事務局：早く組織再編した地区が損をすることがないようにしたい。他の地区も取り組みたいと思えるようにもしていきたい。

委員：事業主体はどの組織かが難しいと思う。複数自治会の中から幹事自治会を作って事業主体となる等も考えられるが、できれば、有志でつくった実行チームも可能にもらえるといい。より柔軟になるとよい。

事務局：検討会や設立準備会のメンバーの例を、手引きには自治会長等と記載しているが、いただいた意見も参考にしたい。

#### **(4) 地域コミュニティづくりのキャッチコピーの作成について【資料4】**

作野委員長：キャッチコピーと事業名は別だと思う。ロゴを決めるとよい。

委員：ワークショップだけで意見を集めるのか。ワークショップはどのように周知するか。

なるべく大々的にやるべき。町政座談会も活用してはどうか。

事務局：ワークショップだけでと考えていたが、より意見を集められる方法も考えたい。周知については、チラシや防災無線のほか、個別の声掛けや、若者が所属する団体等への声掛けもしていきたい。

### 3. 閉会あいさつ

日高副委員長：大変長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございました。最初に町政座談会についての議題があった。スタートのところなので、できるだけ多くの町民に参加していただけるよう努力する。設立の手引きについて、プロセスが大事だと再認識した。時間をかけるのも大事だが、待ったなしの部分もあると思う。意見等あればいつでも事務局までお寄せいただきたい。

#### ○事務連絡

事務局：次回検討委員会 2月19日（月）。

町政座談会に委員の皆さまにもお近くの会場でご参加いただきたい。

地域運営組織全国セミナー：3回行われ、すべてオンラインで視聴できる。11月28日（火）の回は、役場で見ることができるようになるので、参加したい方はお知らせいただきたい。

地区別戦略報告会：12月16日（土）午後

邑南ラボフォーラム：2月17日（土）